

# 「これからの香川の米を考える」研修会 資料

平成 29 年 3 月 24 日（金）

香 川 県 農 業 再 生 協 議 会

## 「これからの香川の米を考える」研修会 次第

1) 開 会

2) あいさつ

3) 県産米の需要に応じた生産に向けて

(1)30年産からの新たな需給調整システムの方向性について

(香川県農業協同組合 営農部 農産販売課 課長 平田 雅規)

(2)30年産に向けた県産米の生産振興方向について

(香川県 農政水産部 農業生産流通課 課長補佐 十河 土志夫)

休 憩

4) 講 演

「農地情報を基盤とした農業経営で何がみえてくるのか」

(岡山県岡山市 株式会社夢ファーム 代表取締役 奥山 孝明氏)

5) 質疑応答

6) 閉 会



## 目 次

### 1 県産米の需要に応じた生産に向けて

1) 30年産からの新たな需給調整システムの方向性について・・・1

2) 30年産に向けた県産米の生産振興方向について・・・7

### 2 講 演

「農地情報を基盤とした農業経営で何がみえてくるのか」・・・13

## 30年産からの新たな需給調整システムの方向性について

香川県農業協同組合 営農部 農産販売課

課長 平田 雅規

# 30年産からの 新たな需給調整システムの方向性について

香川県農業協同組合 営農部農産販売課  
平田 雅規

## 新たな需給調整システム(方向性)

### 1 基本的な考え方

県など行政による生産数量目標の配分は行わず、国からの情報や支援策を踏まえて農業者・農業者団体が主体的な判断をすることにより、米の需給調整に取り組むことを基本とします。

また、水田活用の直接支払交付金を活用して、香川県農業再生協議会や地域農業再生協議会が中心となって、飼料用米や麦、大豆等の生産を支援します。

### 2 具体的な取組み

#### 【香川県農業協同組合】

- 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」に基づく生産調整方針作成者として、米の需給調整に主体的に取り組めます。
- 国からの全国需給見通し等の情報や播種前契約量や昨年の水稲作付面積を参考として、水稲（主食用米や飼料用米など）の生産方針や地区営農センターごとの生産量の目安を作成します。

方針等の協議

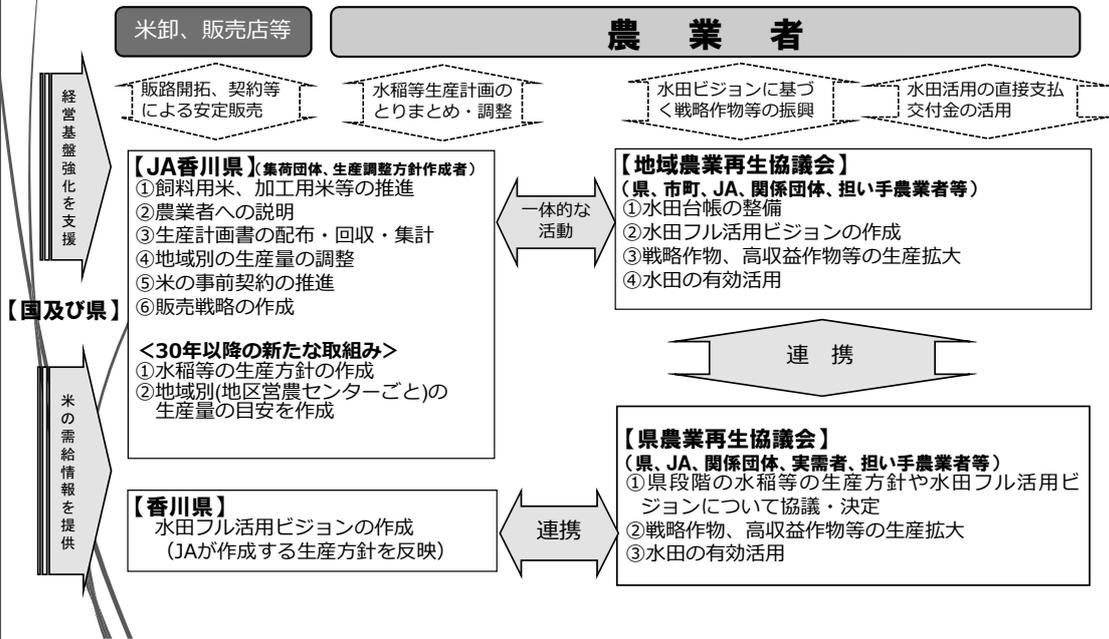
#### 【県】

J Aが作成する水稲の生産方針を反映して、水田フル活用ビジョンを作成し、水田の有効利用の取組みを支援するとともに、県農業再生協議会や地域農業再生協議会の活動について支援します。

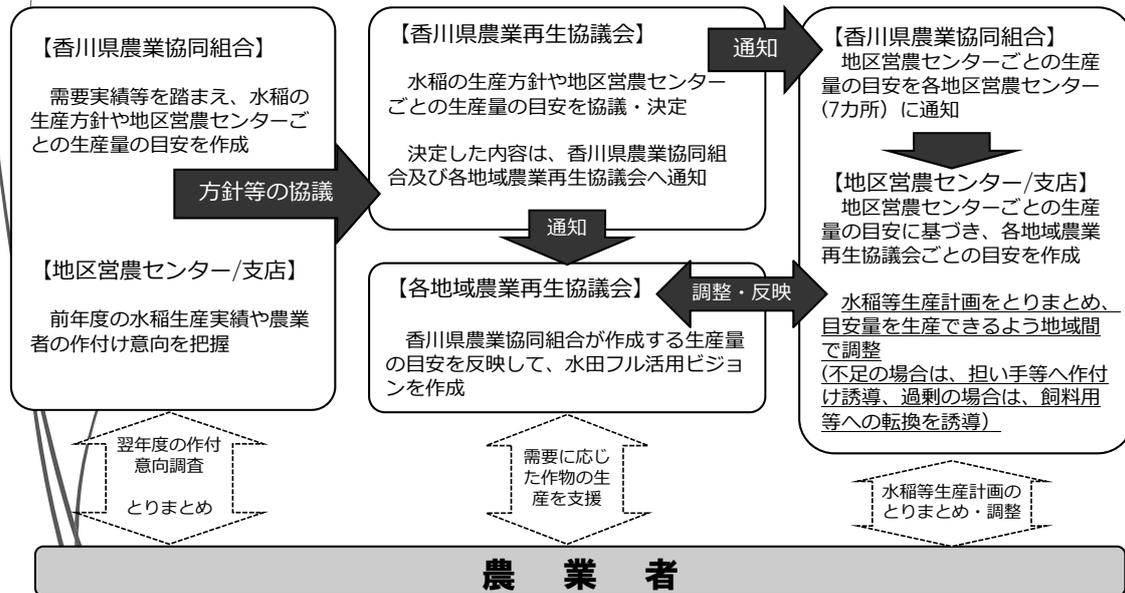
#### 【香川県農業再生協議会】

- 県段階の水稲の生産方針や地域別の生産量の目安、水田フル活用ビジョンの内容について、協議・決定します。
- 決定した内容は、地域協議会及び県農協へ通知します。

# 新たな需給調整システム（フロー図）



# 新たな需給調整システム（生産量の目安の示し方）



※農業者ごとの生産量の目安は、提示しない。

## 新たな需給調整システム（具体的なスケジュール）

| 時 期       | 内 容   |  |
|-----------|---|--|
| 9月        | 農業者への作付意向調査配布・集計(～11月末頃)  |  |
| 出来秋<br>まで | 【J A香川県】<br>・売れる米づくりを推進するため、実需者と事前契約等を締結  |  |
| 12月       | 【国】<br>・「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」の公表等、需給見通し等の提示  |  |
|           | 【J A香川県】（生産調整方針作成者）<br>・水稲（主食用米や非主食用米等）の生産方針を作成<br>・農業者等の意見を踏まえ、地域別(地区営農センターごと)の生産量の目安を作成   | 【香川県】<br>・水田の有効活用と地域農業振興の方向性を提示するため、水田フル活用ビジョンを作成<br>(J Aが作成する生産方針を反映) |
|           | 【県農業再生協議会】<br>・県段階の水稲の生産方針や地域別の生産目標、水田フル活用ビジョンの内容について、協議・決定する   |  |
|           | 【地域農業再生協議会】（担い手の農業者が参画）<br>・水田台帳を整備する<br>・水田の有効活用と地域農業の振興を進めるため、地域水田フル活用ビジョンを作成   |  |
| 1月<br>～2月 | 【J A香川県（生産調整方針作成者）・地域農業再生協議会】<br>・J A香川県と地域協議会とが連携して、水稲実施計画書を配布・回収する<br>(資材等の事前予約とあわせて、水稲生産実施計画書の配布及び早期の回収に努める)<br>・水稲実施計画書を集計し、水稲生産予定面積を把握する |  |
| 3月        | ・播種前契約量や農業者の生産意向面積を参考にして、水稲作付面積を調整する<br>(不足の場合：担い手等を中心とした作付拡大を図る)（過剰の場合：加工用米や飼料用米などへ誘導する)   |  |
| 4月<br>以降  | 【地域農業再生協議会】<br>・水田活用の直接支払交付金により戦略作物の生産拡大を支援する   |  |

## 現行対策との違い

| 項 目            | 30年以降  | 現 行                                       |
|----------------|--|---|
| 生産数量目標の設定      | 農業者や農業者団体の主体的な判断により生産調整を実施   | 行政による生産数量目標を配分                            |
| 農業者への生産数量目標の通知 | 規定なし<br>→目安を示すかどうかは、地域の判断<br>(香川県では、地区別の生産量の目安は示すが、農業者ごとの目安は示さない)    | 国から県、市町、地域農業再生協議会、生産調整方針作成者を通じて、農業者へ通知    |
| 生産調整の実施者の判定    | 生産調整の達成・未達成の判定はしない<br>生産調整達成者のメリット措置はない                              | 水稲作付面積を確認し、生産調整達成者には、米の直接支払交付金などメリット措置を付加 |
| 生産調整方針作成者      | 生産調整方針認定要領など、生産調整方針の基本的仕組みは引き続き存続<br>また、「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」は改正しない |   |
| 県農業再生協議会の役割    | 県段階の水稲の生産方針や生産量の目安について、協議・決定   | 県が定める市町別生産数量目標の設定方針等について、意見を具申            |
| 地域農業再生協議会の役割   | 経営所得安定対策等の交付金の手続きだけでなく、需要に応じた生産における関係機関の役割として、県、市町も地域農業振興の観点から参画     |   |
| 水田フル活用ビジョン     | 県域又は地域における水田の有効利用に向けた指針  |   |

## 品種の方向性(販売戦略)について

| 品 種    | 情 勢  | 方 向 性                                 |
|--------|--|---------------------------------------|
| コシヒカリ  | 全国的にポストコシヒカリの開発進む<br>県内での販売が主体で約70%を占める<br>主に家庭用精米 | 県内需要を確保しながら、多収性新品種や<br>業務用途品種への切り替え   |
| ヒノヒカリ  | 西日本を代表する銘柄で人気堅調<br>県外での販売が主体で約70%を占める<br>主に業務用途    | カントリー施設でのおいでまいへの切り替<br>えはあるが、業務需要に応える |
| おいでまい  | 全国主産地新品種との競合<br>県内での販売が主体で約75%を占める<br>主に家庭用精米      | カントリー施設での荷受け拡大などで一定<br>量まで拡大          |
| はえぬき   | 県内での販売が主体で約70%を占める<br>主に業務用途                       | 業務需要に応えるが、状況に応じて多収性<br>新品種などへの切り替えも検討 |
| 多収性新品種 | 業務用途に対応した作付拡大が進む<br>あきさかり等の試験栽培                    | 業務需要に応えるため、拡大方向                       |

## 香川県の現状と生産量の目安について

| 品種名   | 28年産     |      | 30年産(方向性) |      |
|-------|----------|------|-----------|------|
|       | 作付面積     | 比率   | 作付面積      | 比率   |
| コシヒカリ | 5,000ha  | 38%  | 4,800ha   | 35%  |
| ヒノヒカリ | 5,100ha  | 39%  | 4,000ha   | 29%  |
| おいでまい | 1,450ha  | 11%  | 2,700ha   | 20%  |
| はえぬき  | 550ha    | 4%   | 500ha     | 4%   |
| その他   | 1,100ha  | 8%   | 1,600ha   | 12%  |
| 合計    | 13,200ha | 100% | 13,600ha  | 100% |



## 30年産に向けた県産米の生産振興方向について

香川県 農政水産部 農業生産流通課

課長補佐 十河 土志夫

# 平成 30 年産に向けた県産米の生産振興方向について

香川県 農政水産部 農業生産流通課

## 1 水稻生産の基本的な考え方

主食用米の需要量は、食の多様化などにより全国で県産米の生産量を上回る毎年 8 万トンが減少している。一方で過剰作付が平成 27 年、28 年と 2 年連続で解消し、需給に一定の改善が見られ、米価は回復基調にある。しかしながら、米価はまだ低い水準となっており、本格的な米価の回復や需給の安定化を図るためには、今後とも需要に応じた米生産が必要である。

平成 30 年産からは、行政による生産数量目標の配分がなくなることから、米の産地間競争の激化も懸念されるなど、主食用米については消費者ニーズに即した「売れる米づくり」のより一層の強化が求められる。また、堅調な外食・中食の業務用ニーズへの対応も必要である。

特に、本県は、基盤整備率が低く、ほ場が狭隘なうえに、ため池に依存した特殊な水利慣行を有することから、担い手への農地集積が進みにくいなど固有の課題を抱えており、さらに、高齢化、農業機械更新時における離農の拡大、作付規模の零細性などを考慮すると、今後、水稻を作付けしない水田の拡大が懸念される。

このため、担い手の育成・確保、農地の集積、基盤整備の促進など生産の構造改革の加速化とあわせ、水田の有効活用による農家経営の安定に向けて、需要に応じた主食用米の生産を行うとともに、飼料用米や加工用米など非主食用米の生産拡大をはじめ、麦、園芸作物等の作付推進に努めることとする。

## 2 30 年産に向けた米をめぐる状況と課題

### 1) 米政策の見直し

- ・国から県への生産数量目標の配分 → H30 から配分なし（県から市町、農業者への配分もなし）
- ・国は引き続き全国ベースの需給見通しや「米に関するマンスリーレポート」によるきめ細かい情報提供を実施
- ・30 年産以降も県、市町、JA、農業者等が参画した「農業再生協議会」は存続、水田フル活用ビジョンを引き続き策定

### 2) 経営所得安定対策等の主な見直し内容

#### ①米の直接支払交付金

H25：15,000 円/10a → H26～：7,500 円/10a → H30 から廃止

#### ②水田活用の直接支払交付金

戦略作物助成の交付単価については、変更なし。飼料用米と米粉用米については収量に応じた数量払（区分管理の場合）

H25：80,000 円/10a → H26～：収量に応じ 55,000～105,000 円/10a

H28～作柄調整を導入（作柄により標準単収を調整、交付金額を決定）

#### ③産地交付金

- ・畑地及び水田機能がない農地（畦畔がない農地、用水施設のない農地など）は交付対象から除外
- ・水田活用の直接支払交付金として、別途交付されていた「麦の二毛作助成」、

「耕畜連携助成」は、産地交付金のメニューとして設定

・国からの交付金は、2回に分けて配分。全国一律で1回目は8割、留保分は戦略作物助成に優先的に充てられ、残額があれば10月頃2回目の配分

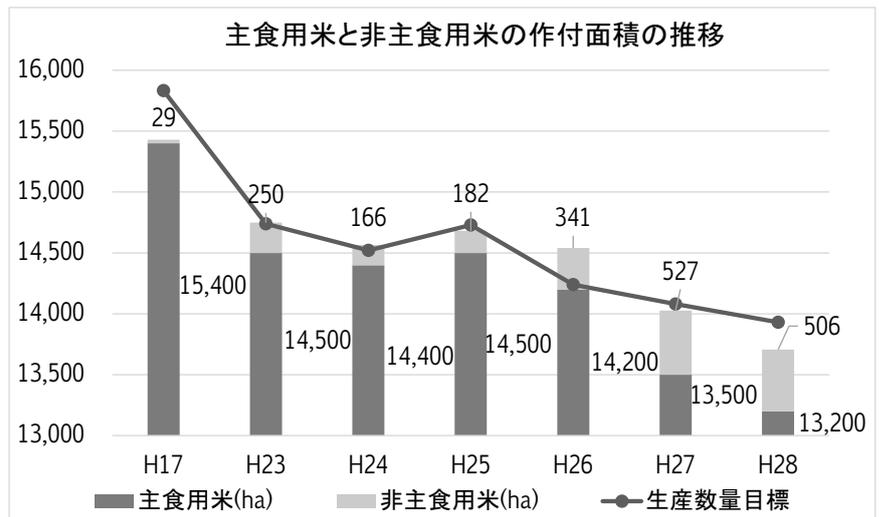
※ 平成29年度経営所得安定対策等の交付金の概要については、「さぬき水田営農だより 第73号」に記載

### 3) 30年産に向けた本県の米生産等の課題

#### <主食用米>

##### ① 作付面積

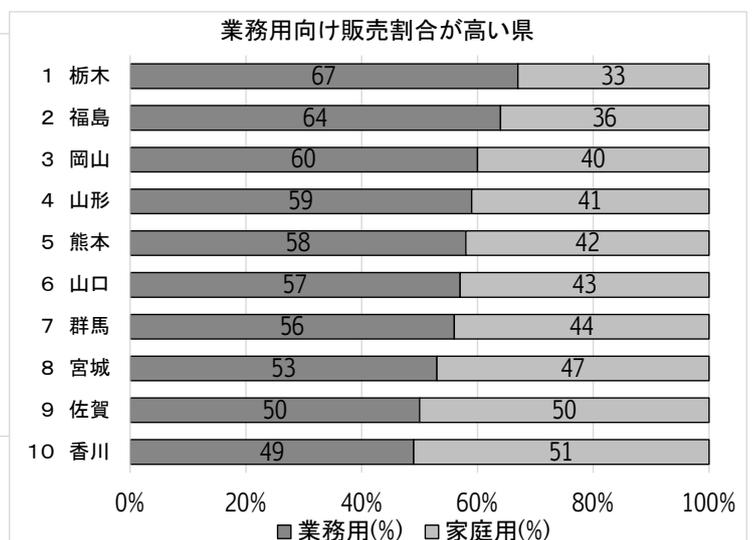
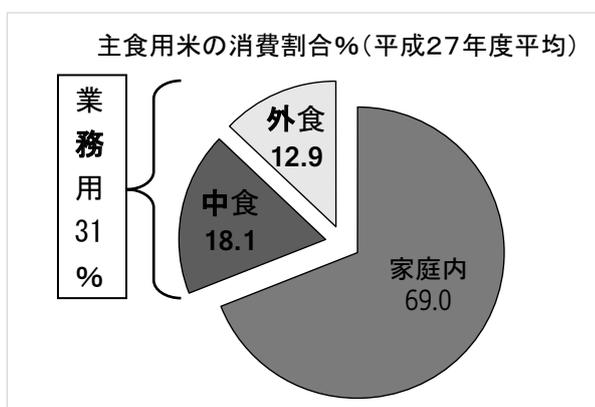
本県は生産数量目標を超過する過剰作付はないが、毎年、生産数量目標を下回る作付となっており、特に平成27年、28年産では非主食用米は増加したものの、主食用米は13,500ha、13,200haと生産数量目標に対して、それぞれ580ha、732haと大きく下回っている。



今後、さらに作付面積の減少が進行すれば、水田の維持や生産能力自体の低下が懸念されることから、現在の生産数量目標の14,000ha程度までは主食用米を作付けする必要がある。

##### ② 需要に応じた生産

ブランド米として高く売れる米、外食・中食など業務用として値頃感のある使いやすい米など、消費者や実需者の様々な需要に応じた米生産が求められている。特に業務用米の需要は、主食用米の消費の31%を占めており、食の外部位化から今後も増加が予想されること、また、本県は業務用向けの販売割合が高い(49%)ことから、今後、より一層複数年契約などの安定取引の拡大を検討する必要がある。



### ③品質・収量の安定化

温暖化等の影響もあるが、本県は1等米比率が依然として全国でも低く（10～20%程度）、改善の必要がある（全国平均80%程度）。また、収量水準も全国に比べて、低下傾向にあり、抜本的な品質・収量の安定化対策が求められる。

### ④品種構成、作期構成

「コシヒカリ」は、本県では品質低下により、需要量の減少が著しい。「はえぬき」も同様の傾向となっている。特に「コシヒカリ」は、栽培の安定化のため、本県では早期栽培が多く行われているが、夏期の高温時に成熟するため品質の確保は難しい。ブランド米としての「おいでまい」や業務用中心の「ヒノヒカリ」も含め、価格帯や用途に合わせた品種構成、高温回避による品質の安定化や麦との二毛作を考慮した作期構成などが課題である。さらに、品質が良く、収量性が高い主食用多収品種など業務用に適した品種の検討も必要である。

### ⑤省力化・低コスト化

水稻生産者の高齢化や米価下落に対応した省力化・生産コスト低減による所得向上が課題である。直播栽培による育苗・田植作業の省略や無人ヘリやドローン、乗用型管理機等を活用した薬剤防除など、より一層の省力化や低コスト化を推進する必要がある。

## <非主食用米>

### ①畜産農家等の需要に応じた生産（飼料用米、WCS用稲）

飼料用米は、県内の畜産農家や飼料会社からの需要があるが、需要に応じた安定供給を図るためには、主食用品種による一括管理だけでなく、多収専用品種による区分管理を進める必要がある。多収品種は、栽培面では病気に弱い、最大の利点である収量が確保できていない等の課題があり、流通面ではJA集約型の流通体系の活用による円滑な流通体制の整備が課題である。

### ②酒造用、冷凍米飯用等の需要に応じた生産（加工用米）

加工用米は、特に「オオセト」は酒造用掛米として、灘、伏見の県外酒造メーカーから堅調な需要があることから、結び付きを強化し契約数量の拡大を図る必要がある。このため、複数年契約の推進や栽培面での収量の安定化を図ることが課題である。また、冷凍食品メーカーからは、ピラフやチャーハンなど冷凍米飯向けの新たな需要もあることから、これに対応し主食用品種による加工用米の検討も必要である。

## <水稻以外>

### ①麦の需要に応じた生産、野菜等の園芸作物・大豆の面積拡大

小麦は実需者から増産要望が強いことから、転作田だけでなく、特に水稻後の二毛作による作付拡大が課題である。このため、水稻後に野菜などを作付けする場合を除き、水稻の作期を早期から普通期栽培に転換していくことも必要である。

また、農業経営の効率化や収益性の向上のため、野菜等の園芸作物や大豆などの生産振興を図る必要がある。

### 3 30年産に向けた本県の米生産の方向性

行政による生産数量目標の配分は行わず、国からの情報や支援策を踏まえて農業者・農業者団体が主体的な判断をすることにより、米の需給調整に取り組むことを基本とする。

こうした新たな需給調整により、需要に応じた米生産を進めるとともに、麦や大豆、野菜等の園芸作物まで幅広い作物の生産が可能な水田の機能を生かし、有効活用を図ることで、本県の水田農業の発展と水田の維持に取り組む。

#### ○課題等を踏まえた今後の取組みの方向性

##### ①多様な需要に応じた生産の推進

家庭用、業務用、加工用、飼料用など、消費者・実需者ニーズに沿った生産を推進

##### ②ブランド化と安定取引の両面による有利販売の推進

高値を狙うブランド米、値頃感のある使いやすい米の両方を組み合わせて有利に販売

##### ③省力・低コスト化による経営力の強化

機械導入、ICT活用による農作業の省力化や資材費低減等により経営力を強化

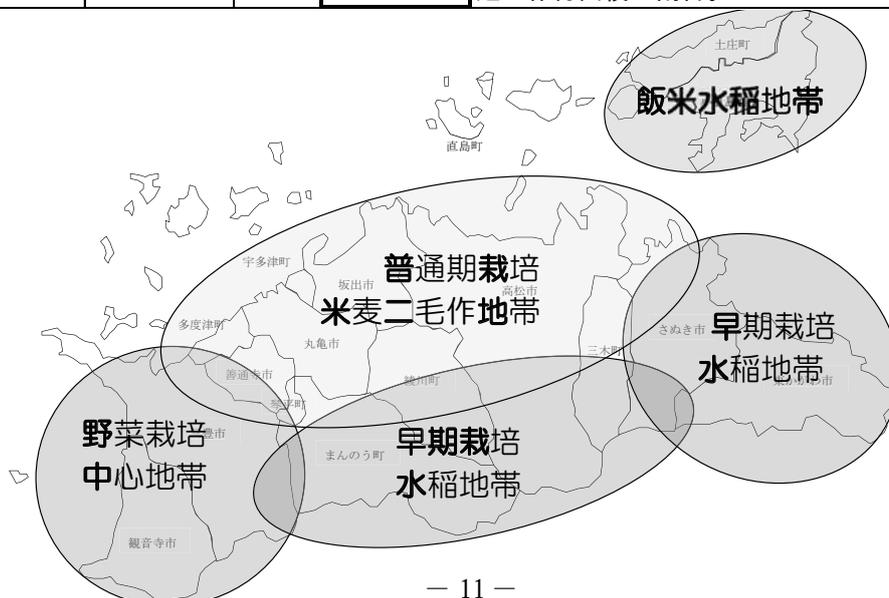
##### ④品種構成、作付体系など地域別の展開方向の検討

有利販売や適地適作に向けた品種構成、作付体系を考慮した地域別の展開計画を検討

#### 今後の水田活用の目標（例）

（単位：ha）

|          |       | 現状<br>(H28推定) |   | 目標<br>(例) | 備考(内訳等)   |                              |  |
|----------|-------|---------------|---|-----------|---|------------------------------|--|
|          |       |               |   |           | 用途(品目)  | 面積                           | 品種等  |
| 水稲       | 主食用米  | 13,200        | → | 14,000    | 業務用<br>家庭用  | 8,400<br>5,600               | ヒノヒカリ、コシヒカリ他<br>おいでまい、コシヒカリ他                     |
|          | 非主食用米 | 500           | → | 1,000     | 飼料用<br>加工用<br>米粉用<br>WCS  | 600<br>200<br>50<br>150      | みなちから、ホシアオバ他<br>オオセト、さぬきよいまい<br>ヒノヒカリ他<br>たちすずか他 |
| 麦類       |       | 2,500         | → | 3,500     | 小麦<br>はだか麦  | 2,500<br>1,000               | さぬきの夢2009<br>イチバンボン                              |
| 野菜       |       | 4,300         | → | 5,000     | レタス<br>ブロッコリー<br>タマネギ<br>ニンニク   | 1,000<br>1,000<br>250<br>100 | その他、アスパラガス、青ネギ、<br>イチゴ、キュウリ、トマトなど                |
| その他      |       | 1,800         | → | 2,000     | 大豆<br>飼肥料作物等  | 200                          | フクユタカ、香川黒1号<br>飼肥料作物、工芸農作物など                     |
| 作付面積計    |       | 22,300        | → | 25,500    | 注) 作付面積は、二毛作、複数回作付を含む延べ作付面積。水田利用率(%)は、水田面積(25,600ha)を100とした延べ作付面積の割合。 |                              |  |
| 水田利用率(%) |       | 87.1          | → | 99.6      |   |                              |  |





農地情報を基盤とした農業経営で何が見えてくるのか

株式会社 夢ファーム

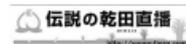
代表取締役 奥山 孝明



## 経営の概要

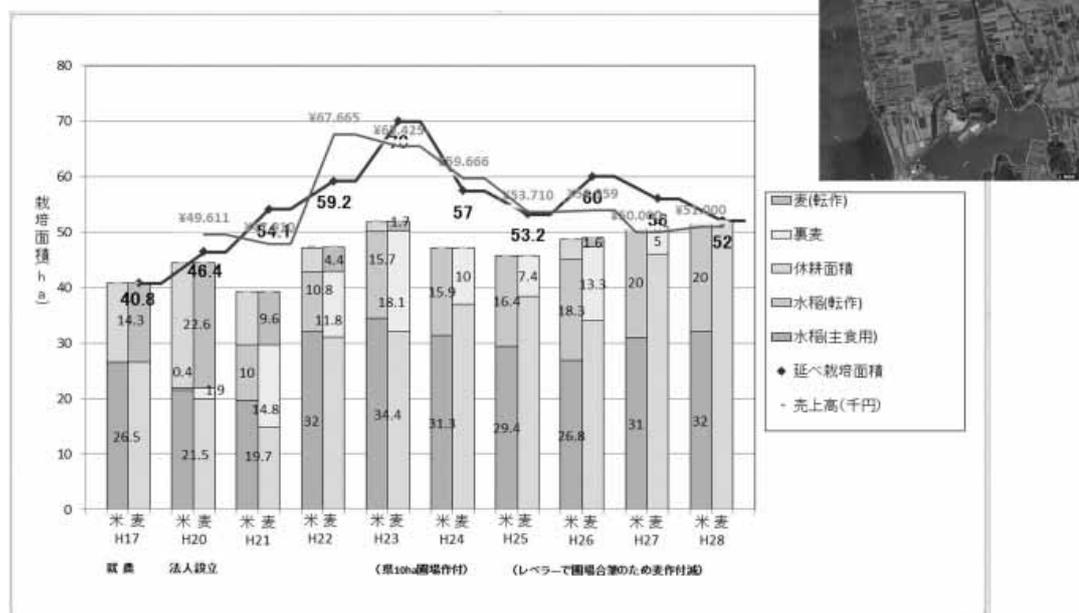
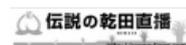
- ・平成17年父の農場を手伝う
- ・法人設立 平成20年1月（2月末決算）
- ・役員2名 期間パート3名（播種・草刈・収穫時期 年間100日）
- ・事業内容 水稲・麦類の生産・販売、酒類販売
- ・経営面積 57ha（平成28年作付実績）
- ・作業受託 延30ha（内乾燥調製25ha）
- ・水稲57ha内訳 耕起乾田直播栽培面積49ha（85%）  
（主食：18ha、醸造17ha、飼料14ha、加工4ha、米粉3ha、種子1ha）
- ・農業を始める前は、メガ社会福祉法人で施設設備の設計・施工・保守管理を9年間現場代理人として勤める。（一級管工事施工管理士・電気工事士）

2008年度の法人化から乾田直播を中心に水稻を作付！  
2011年度から高速播種作業機を試験導入！



65PS+パーチカルハロードリームシーダーで、碎土+施肥+播種+鎮圧+土壌処理の5工程を一度に行い時速5.4kmで、平均4ha/一日/一台の2台体制で播種作業を行う！

## 営農からの作付面積推移



水利関係のデータを入力すれば、水が何時入ってくるかも一目瞭然！

伝説の乾田直播



農研機構 作業計画・管理支援システム(通称PMS:無料)を  
2008年度の法人化から使用！

伝説の乾田直播



地主・地番・面積  
品種を色分け  
肥料・農薬などは  
手書き！



地主・地番・面積  
品種・肥料・農薬  
などetc、

データを一瞬で  
表示可能！

作付面積の計  
算も自動集計！

作業履歴の確  
認も簡単に



農業を始めた2005年は白地図ベース！

PMSサポートサイト:<http://www.aginfo.jp/PMS/index.html>

**圃場地図ファイルをベースとした、表示・入力・編集ソフト！  
無料のSQLServerの圃場DB内に、農作業管理に関するデータを格納**



| 管理ファイル年度 | 2017年 | 2016年 | 2015年   | 2014年 | 2013年  | 2013年 | 2012年         | 2011年 | 2010年 | 2009年 | 2008年 |
|----------|-------|-------|---|-------|--|-------|---------------|-------|-------|-------|-------|
| 9,700件超  | 各種台帳  |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>土地台帳</li> <li>作付台帳</li> <li>作業管理台帳</li> <li>生育台帳</li> </ul>                                      |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>地番、地籍面積、地区、所有者、耕作者、地価etc</li> <li>作物、品種、作付面積、作型用途etc</li> <li>作業日、作業時間、作業者、補助者、機械、資材</li> <li>播種量、苗立数、一穂粒数、収量etc</li> </ul> |       | 日々の作業入力       |       |       |       |       |
| 5,200件超  | マスタ   |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>農家・取引先、作業者、地区</li> <li>作物・品種・栽培作業・作型用途</li> <li>肥料・農薬・機械・商品・資材</li> <li>科目・雑草・種苗・出荷形態</li> </ul> |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>住所、会社名、電話番号、メールアドレスetc</li> <li>作物名、品種名、作業名、用途名etc</li> <li>単価、JANコード、容量、科目名、等</li> <li>科目名、雑草名、風袋容量etc</li> </ul>          |       | 必要時に更新        |       |       |       |       |
| 540枚     | 圃場地図  |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>圃場図、基盤図</li> <li>農家図、灌漑図、水系図</li> <li>背景図(航空写真・地形図・白地図など)</li> </ul>                             |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>SHPファイルにて作成</li> <li>地理情報付画像ファイルetc</li> </ul>  |       | 管理ファイル年度ごとに更新 |       |       |       |       |

太字は各種マスタで設定項目参照      下字は圃場SHPファイル内にもデータ保有

在庫管理機能として商品・資材・肥料・農薬の入出庫は可能ではあるが・・・

**「PMS」と経理ソフトを同じマスタで管理する「資金管理システム」を  
「平成26年度農業界と経済界の連携による先端モデル事業」にて開発！**



・市販の会計ソフトとPMSを併用していたが、顧客情報・商品・資材・肥料・農薬など二重帳簿になり、経営年数が増えるにしたいが、経理作業コストが、掛かって来た。

顧客情報・商品・資材・肥料・農薬などのマスタを共用し、消費税や勘定科目をPMSに追加することで、作業管理と資金管理を、同じマスタで行えるようになり、マスタ整備の時間短縮に！



一つのシステムで経営管理の時間を削減！



PMS資金管理システムの導入効果の比較

製品

商品

肥料

農薬

資材

PMSのマスターデータをすべて使用して一元管理している

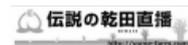
PMSと会計ソフトの2つのマスターデータの整備が必要だった！

手書き・手計算の箇所が多い！  
会計ソフトと通帳の名寄せ作業、地代の計算や伝票作成時間の短縮の効果が大きい！

今までの手書き作業時間と自動入力との差を1分とすると、売上1,067レコード、仕入2,979レコード、口座1,658レコード、合計5,704レコードとなり、5704÷60分で、95時間の削減になる。また4マスタの合計数は1,778レコード有り、データの整備にも、1778÷60分で29時間余分に掛かっている。

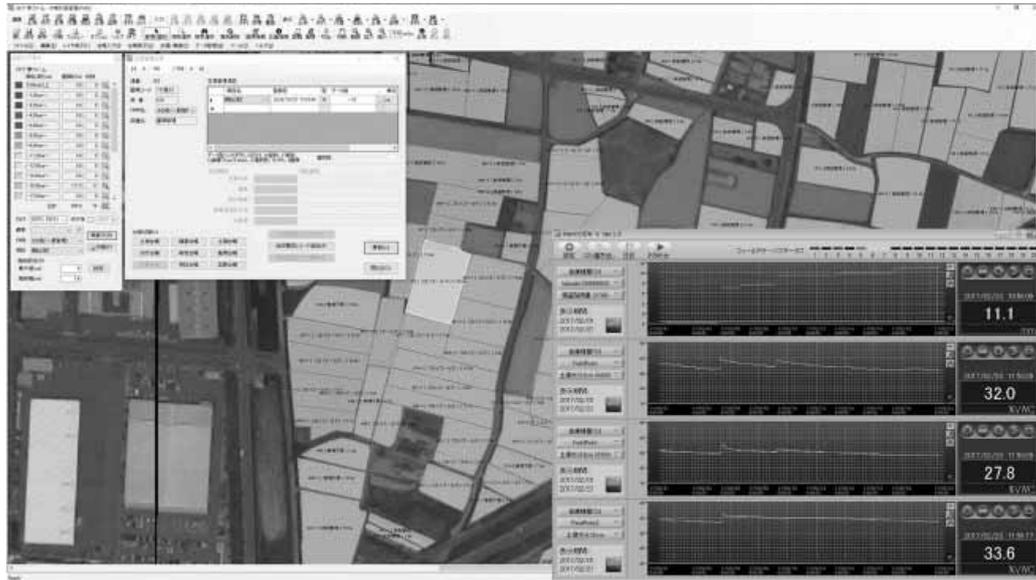
バーコードリーダーからJAバンクの入出金伝票を印刷、JAネットバンクのCSVデータをシステムに取り込むことで、システムの残高が口座残高と同じになり、入出金の管理が激減！お試し版を無料公開！

DB上に作業管理と資金管理の情報が有り、無料のレポートソフトで本年度の作付面積や売上もリアルタイムで見れるようになる！

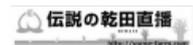


無料のソフトだけでも農業経営判断が可能に！

生育台帳に耕起深を記録！ 土壌水分データと土質で圃場が見えてくるか？



e-土壌図 (e-SoilMap); HP (<http://agrimesh.dc.affrc.go.jp/e-dojo/>) のkmlデータをGoogleEarthに重ねると自分の圃場の土壌図が分かる



土壌の分類名

農業環境技術研究所  
土壌情報閲覧システム

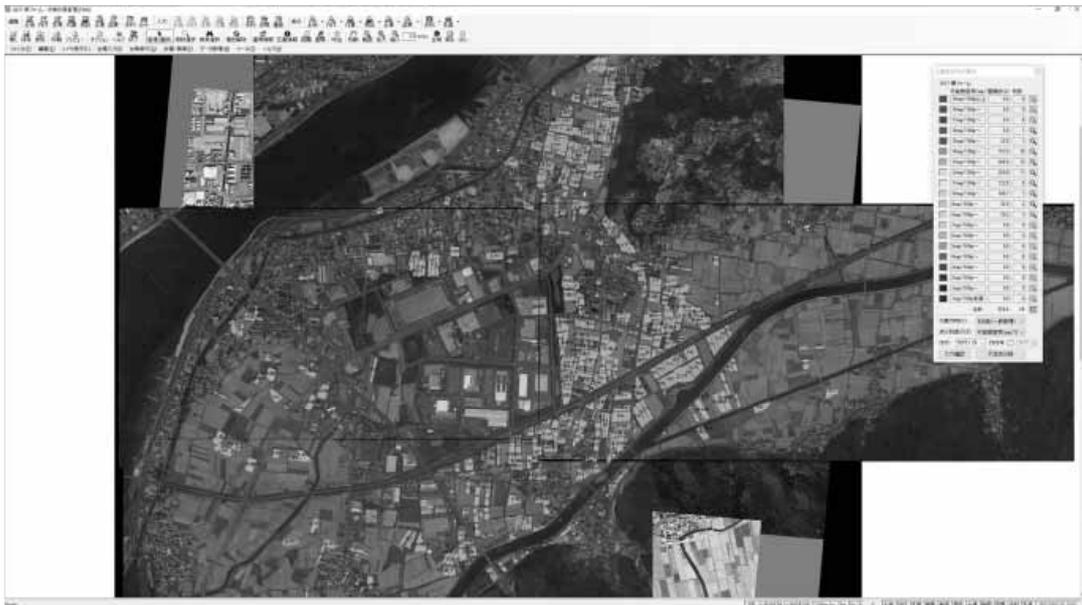
|                   |                    |                     |
|-------------------|--------------------|---------------------|
| 01A, 粘質土          | 07C, 礫質灰色粘土地       | 12K, 中粒粘褐色粘土地, 現紋あり |
| 02A, 砂土, 未熟土      | 07D, 灰色粘土地, 石河原    | 12X, 礫質褐色粘土地, 現紋あり  |
| 03A, 厚層多量腐葉多量黒ボク土 | 08A, 粘粒グライ粘土地      | 13A, 粘粒灰色粘土地, 灰色系   |
| 03B, 厚層腐葉黒ボク土     | 08B, 中粒粘グライ粘土地     | 13B, 中粒粘灰色粘土地, 灰色系  |
| 03C, 表層多量腐葉黒ボク土   | 08C, 礫質グライ粘土地      | 13C, 礫質灰色粘土地, 灰色系   |
| 03D, 表層腐葉黒ボク土     | 09A, 粘粒赤色土         | 13D, 粘粒灰色粘土地, 灰褐色   |
| 03E, 灰色黒ボク土       | 09B, 中粒粘赤色土        | 13K, 中粒粘灰色粘土地, 灰褐色  |
| 04A, 厚層多量腐葉多量黒ボク土 | 09C, 礫質赤色土         | 13Y, 礫質灰色粘土地, 灰褐色   |
| 04B, 厚層腐葉多量黒ボク土   | 09D, 中粒粘赤色土, 現紋あり  | 13G, 灰色粘土地, 下層黒ボク   |
| 04C, 表層多量腐葉多量黒ボク土 | 10A, 礫質黄色土         | 13H, 灰色粘土地, 下層有暗質   |
| 04D, 表層腐葉多量黒ボク土   | 10B, 中粒粘黄色土        | 13I, 灰色粘土地, 現紋なし    |
| 04E, 灰色多量黒ボク土     | 10C, 礫質黄色土         | 14A, 粘粒グライ土         |
| 05A, 多量腐葉黒ボクグライ土  | 10D, 粘粒黄色土, 現紋あり   | 14B, 中粒粘グライ土        |
| 05B, 厚層腐葉黒ボクグライ土  | 10E, 中粒粘黄色土, 現紋あり  | 14C, 礫質グライ土         |
| 05C, 灰色黒ボクグライ土    | 10F, 礫質黄色土, 現紋あり   | 14D, 粘粒グライ土         |
| 06A, 粘粒褐色森林土      | 11A, 粘粒暗赤色土        | 14E, 中粒粘グライ土        |
| 06B, 中粒粘褐色森林土     | 11B, 礫質暗赤色土        | 14F, グライ土, 下層黒ボク    |
| 06C, 礫質褐色森林土      | 11C, 粘粒褐色粘土地       | 14G, グライ土, 下層有暗質    |
| 07A, 粘粒灰色粘土地      | 11D, 中粒粘褐色粘土地      | 15A, 黒泥土            |
| 07B, 中粒粘灰色粘土地     | 11E, 礫質褐色粘土地, 現紋あり | 16A, 泥炭土            |

Copyright (C) 2000 National Institute for Agro-Environmental Sciences. All Rights Reserved.

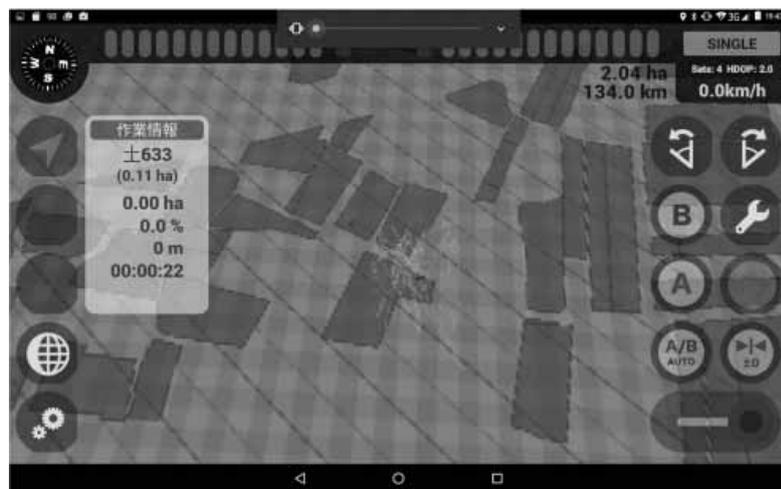
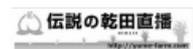


赤く囲まれた圃場が耕作地

土壌分析データと土質で圃場の何が見えてくるか？



農地情報が農業者にとって扱いやすく「見えるか」するには！

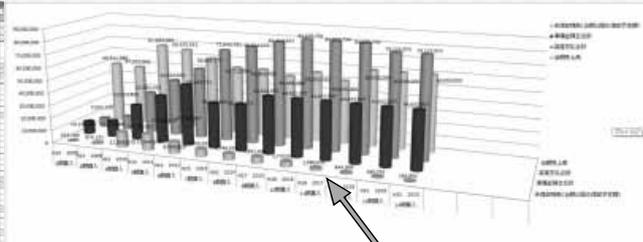
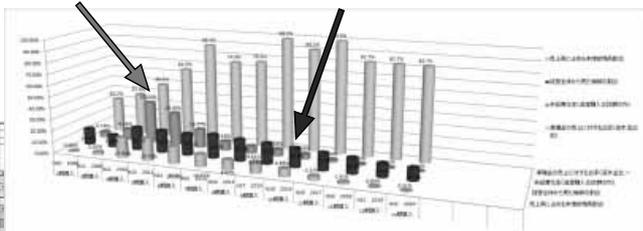


AgriBusNavi【Andorid用の無料ガイダンスアプリ】の圃場は、SHPファイルを取込可能！！普段見慣れた地図を使えるとわかりやすい！マップも取込可能？

固定資産と減価償却費との関係が稲作経営者の資金繰りに大きく関係している！

H23 未償却残高が1200万

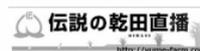
H28 購入資産の割合が売上の17%に



H29 償却金額が168万円が確定

機械を購入した時点で償却金額が次年度以降わかり、次の設備投資の判断材料になる！

農業者と関係者の共力で、未来の明るい食卓を！



ご清聴ありがとうございました。

